

# 教員・教育担当者養成課程 介護コース カリキュラム

## 1 本コースの位置づけ

本コースでは、卒業に必要な必修科目が、厚生労働省規則等に定められた「介護教員講習会」修了に必要な要件を満たすため、卒業とともに介護教員講習会修了証を取得できます。

また、教育担当者として必要な人間理解を基盤とした幅広い知識や技術を学ぶことができます。

## 2 本コースの特徴

本コースでは、介護教員または施設等での教育担当者として必要な知識・技術を学びます。

(1) 平成30年度からの介護福祉士養成課程新カリキュラムに対応しているカリキュラムです。

(2) 教育内容は、次の5つの観点を重視しています。

- ① チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充
- ② 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上
- ③ 介護過程の実践力の向上
- ④ 認知症ケアの実践力の向上
- ⑤ 介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

(3) 授業での経験を振り返ることにより、教育者としての実践力に繋がります。

## 3 授業時間・日程と修了要件

### (1) 授業時間・日程（予定）

	必修科目	選択科目
全科目	301.5 時間※	13.5 時間※
授業時期	令和5年4月～翌年3月	令和5年4月～翌年2月

※実践教育センターでは、1時間を45分として授業を実施しています。

そのため、実践教育センターでの授業時間は、必修科目402時間、選択科目18時間となります。

### (2) 科目区分

必修科目：卒業するために必ず履修しなければならない科目です。

選択科目：卒業要件とは関わりなく、選択する科目です。

### (3) 修了要件

介護教員講習会の修了には、必修科目の全科目について、当該科目授業時間数2/3以上の出席と学修結果の評価により、科目履修認定を得ることが必要です。

#### 4 カリキュラムの概要

##### 【教育目的】

介護教育に必要な知識・技術を習得し、豊かな人間性を養い、介護教育に貢献できる人材を育成する。

##### 【教育目標】

- 1 介護教育に必要な知識や技術を学び、効果的な教育活動を展開できる。
- 2 人間の本質に対する認識を深め、主体的に人間関係を展開できる。
- 3 介護の本質、介護福祉学の理念を探究し、介護福祉士の専門性を追究できる。
- 4 介護教育における研究の意義を理解し、実践の中で研究的態度がとれる。

##### 【教育内容】

(多少変更することがあります。)

分野	科目名 (必修・選択の別)	時間	内容	ねらい
基礎	ヒューマンサービス論Ⅰ (必修)	2	・ヒューマンサービスとその理念	ヒューマンサービスとしての介護を実践するために、基本理念を学ぶ。
	ヒューマンサービス論Ⅱ (選択)	18	・ケアの本質 ・アサーティブネス・コミュニケーション ・多職種との学びによる相互理解	ヒューマンサービスとしての介護を実践するために、ケアの本質や対人関係における適切な自己表現のあり方を学ぶ。
	社会福祉学 (必修)	40	・社会福祉の意義と理念 ・日本における社会福祉の成り立ち ・多職種連携とチームマネジメント	近年の社会の動向をふまえ、社会福祉の意義、理念、基盤となる社会保障制度について学ぶとともに、地域における社会福祉を理解する。
	倫理学 (必修)	40	・倫理の概念 ・介護実践における倫理的意思決定 ・生命の始期・死期における倫理的な課題	倫理の基本的な概念を理解し、介護専門職として介護倫理の課題と解決の方向性や支援のあり方を考察する。
	設定時間数 小計	100	(必修 82 / 選択 18)	
教育	教育原理 (必修)	30	・教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等の関連性 ・教育の思想と歴史の変遷 ・教育の制度 ・教育の実践	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等のかかわりについて理解するとともに、教育の思想や歴史、制度、実践等教育に関する基礎的な理論について理解する。
	教育方法 (必修)	44	・教育方法の基礎的理論と実践の歴史 ・教育方法の原理と実践技術 ・授業の目標と授業展開のあり方 ・具体的な指導案の書き方・作成 ・授業展開の実際	これからの社会に求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法、教育技術、情報機器及び機材の活用に関する基礎的な知識・技能を理解し、学んだことを教育現場にいかす態度と具体的な方法を身に付ける。
	教育心理 (必修)	30	・発達の基礎知識、及び発達と教育 ・学習の基本原則と代表的な学習理論 ・生涯発達における青年期の諸課題 ・特別な教育的ニーズの理解と支援	教育心理学の観点から、発達と教育の関係、学習活動を支える認知や動機づけのメカニズム、学習を促進する集団の相互作用を学ぶ。
	教育評価 (必修)	16	・教育評価とは何か ・学生、教員、教育組織を評価する ・創造的な教育評価を実践する	教育における評価の概念をとらえ直し、教育実践と評価の関係を考える。
	設定時間数 小計	120	(必修 120)	

分野	科目名 (必修・選択の別)	時間	内容	ねらい
専 門	介護福祉学 (必修)	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の介護問題と介護福祉士の存在意義</li> <li>時代が求める介護福祉士像と介護福祉士養成教育の変遷</li> <li>介護福祉士の生活支援を支える人権・福祉理念</li> <li>介護実践を支えるチームマネジメントと多職種連携・協働</li> <li>地域を意識した生活支援の展開と地域包括ケア</li> </ul>	現代の介護問題と介護福祉士の存在意義を確認し、その社会的背景も視野に入れながら、求められる介護福祉士像と介護福祉士教育の歴史を踏まえ、今日の介護福祉士教育の目指すべき内容や課題を理解し、介護福祉学構築に向けての礎とする。
	介護教育方法 (必修)	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護教育の全体構造</li> <li>学習者の主体性を引き出す授業とは</li> <li>教材研究の方法</li> <li>授業設計と指導案の作成方法</li> <li>模擬授業と授業改善の視点</li> <li>授業評価</li> </ul>	各領域の目的、教育に含むべき事項、留意点等を理解し、介護教育の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解するとともに、様々な学習指導理論を踏まえて授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
	学生指導・ カウンセリング (必修)	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセリングのこれまでの歴史</li> <li>話し合うという事理解、解説</li> <li>学生指導にいかすカウンセリング</li> <li>学生指導の実際</li> <li>学内外の関係者との協働・連携の視点</li> </ul>	学生指導の目的を理解し、学生の成長を支援するカウンセリングの目的や方法等について学習する。
	介護実習指導方法 (必修)	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護総合演習の役割</li> <li>介護実習の目的、目標</li> <li>介護実習への動機づけの方法</li> <li>事例検討とカンファレンスの運営方法</li> <li>スーパービジョンの方法</li> </ul>	実習の意義及び実習指導に当たる教員・実習指導者の役割を理解し、介護総合演習の目的と効果的な実習指導方法を学習する。
	介護過程の展開 方法 (必修)	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の意義と目的</li> <li>介護過程の構成要素</li> <li>ICF(国際生活機能分類)、ケアマネジメントとの関係</li> <li>事例を通じての介護過程の展開</li> </ul>	介護過程は、介護福祉士の本質を具現化する過程である。質の高い介護を実践し、利用者が望む生活の実現にむけて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学習する。
	コミュニケーション技術 (必修)	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション技術の教育内容の役割、表現、工夫</li> <li>コミュニケーション理論と実際</li> <li>介護福祉士に求められるコミュニケーション</li> </ul>	コミュニケーション技術を教授する介護教員として、コミュニケーション技術の教育内容を知り、その展開方法を学ぶ。
	研究方法 (必修)	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉分野における研究と倫理</li> <li>研究の意義、研究の成果</li> <li>研究の種類、方法、過程</li> <li>研究計画の立案</li> <li>文献検索</li> </ul>	介護教員として求められる研究の意義について理解し、研究の方法と種類、進め方、発表方法等について修得する。
設定時間数 小計 200 (必修 200)				
設定時間数 小計 420 (必修 402 / 選択 18)				